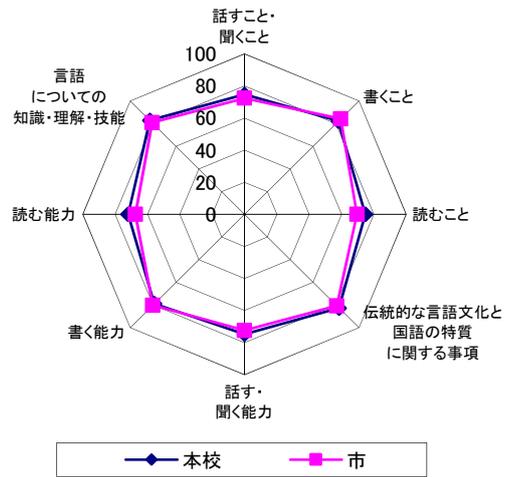


# 宇都宮市立宝木中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	74.7	72.4	70.5
	書くこと	82.3	84.1	70.0
	読むこと	74.7	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.7	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	74.7	72.4	70.5
	書く能力	78.8	80.2	68.0
	読む能力	72.1	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	82.7	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

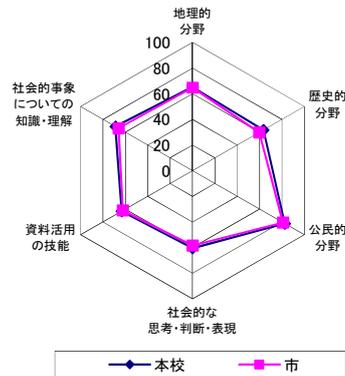
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均を2.3ポイント上回っている。</li> <li>○「話の展開に注意しながら聞き取る」項目では、市平均を9.9ポイント上回った。</li> <li>●「論理的な構成や展開を考えて発表する」項目が市平均を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと」では、「スピーチ」の授業や「物事やものを説明する」内容を扱い、聞き手に話し手の伝えたい内容を理解してもらえるように、内容構成を指導する。</li> <li>・「聞く」では、聞き取りテストの回数を学期ごとに4回実施しており、話を聞くポイントを確認する機会を定期的に設けている成果が現れてきているので、継続していく。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均を1.8ポイント下回っている。</li> <li>●「読み取った内容を明確にして書く」「自分の考えを明確にして書く」項目では、それぞれ市の平均を3.2、3.7ポイント下回った。自分の考えを書き表すことに関し苦手意識が強い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に対して、自分の考えをまとめたり、感想を書いたりする機会を増やす。</li> <li>・自分の考えを相手に伝えるために、効果的な文章の書き方や構成の仕方などを細かく指導していく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均を5.2ポイント上回っている。</li> <li>○全ての項目で市平均を上回り、特に「文章の展開に即して内容をとらえる」「文章の表現の特徴をとらえる」では大きく市平均を上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明的文章の読み取りを苦手とする生徒が多い傾向がある。要約をするときのキーワードの選び方や、内容を省略しまとめるときのポイントを指導する。</li> </ul>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均を1.9ポイント上回っている。</li> <li>○漢字の読み書きに関しては、市平均を上回り、良好である。</li> <li>●「用言の活用」が市平均より7.5ポイントも低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の開始時に行う漢字の小テストが、漢字の反復練習の一助となっている。今後も継続していく。</li> <li>・「用言の活用」の復習を、折にふれて反復して行い、過去の高校入試問題を取り入れたり例題に数多くふれたりすることで苦手意識をなくしていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立宝木中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.2	64.8	54.5
	歴史的分野	63.5	59.7	52.2
	公民的分野	82.5	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	60.5	58.3	49.5
	資料活用 の技能	63.3	62.2	53.1
	社会的な事象についての知識・理解	68.9	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

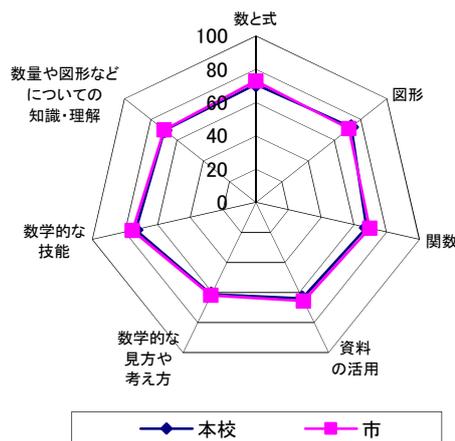
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、市の平均正答率をやや上回っている。</li> <li>○「世界から見た日本の姿」の単元では、市平均を約3ポイント上回り良好である。</li> <li>○資料をもとに記述する問題の正答率が、市平均より大幅に高く、大変良好である。</li> <li>●「日本の諸地域」の単元では、市平均を約2ポイント下回っている。特に中国・四国地方の農業や交通についての問題の正答率が市平均を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>・地図やグラフ、資料の読み取り方のポイントを丁寧に指導し、既習事項を生かして考えるように、授業で意識させる。</li> <li>・地図と関連させて読み取る力が大切になるので、読み取るポイントを授業で教えるなどして、グラフや地図を活用する力を育てる。</li> <li>・複数の資料の読み取り方については、授業の導入で身近な社会に関する話題を取り入れるなどして、一般的な教養や知識を広げる。</li> <li>・調べ学習や問題解決学習を効果的に行うことで、資料を活用する能力を育てていく。</li> </ul>
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、市の平均正答率を大きく上回っている。</li> <li>○「近世の日本」の単元では、市平均を約7ポイント上回った。特に江戸時代に関する問題の正答率は、ほぼすべてで市平均を上回った。</li> <li>○資料をもとに記述する問題の正答率が、市平均より高く、思考力や資料活用能力が育ったと言える。</li> <li>●「古代までの日本」の単元のうち、飛鳥時代と平安時代に関する問題の正答率が低く、市平均を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業で学習した内容の復習を毎時間行うことで、基礎的基本的な知識の定着を図ることは、今後も継続する。</li> <li>・資料から既習事項を生かして考えるために、思考するポイントを教える授業を効果的に実施することで、資料を活用して思考する問題に対応する学力を伸ばしていく。</li> <li>・年表を活用する習慣を付けさせることで、海外との関係や歴史の流れをつかめるようにする。</li> <li>・資料から思考し、記述する問題に対応するためには、読解力や表現力も必要になるので、自分の考えを記述させる授業を実践する。</li> </ul>
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、市の平均正答率をやや上回っている。</li> <li>○「私たちの生活と現代社会」の単元では、ほぼすべての問題で市平均を上回り良好である。</li> <li>●資料をもとに記号を選択する問題のみ、正答率が市平均を下回った。資料を活用し、思考してから記号を選択する問題が不得意であると言える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民的分野は、政治や経済などの一般教養が大切になるので、日頃から授業でニュースを話題に出して興味を高めていく。</li> <li>・前回の授業で学習した内容の復習を毎時間行うことで、基礎的基本的な知識の定着を図ることは、今後も継続する。</li> <li>・短時間でも考える課題を与え、自分なりの考えをまとめる時間とることが思考力を高めるためには有効であるので意識して行いたい。</li> <li>・記号を選択する問題では、既習の知識を生かしながら、消去法の考え方を使う能力を育てていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立宝木中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	71.0	73.0	67.5
	図形	72.6	71.1	59.5
	関数	67.7	69.7	60.0
	資料の活用	63.9	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	61.2	61.8	49.6
	数学的な技能	73.5	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	69.6	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

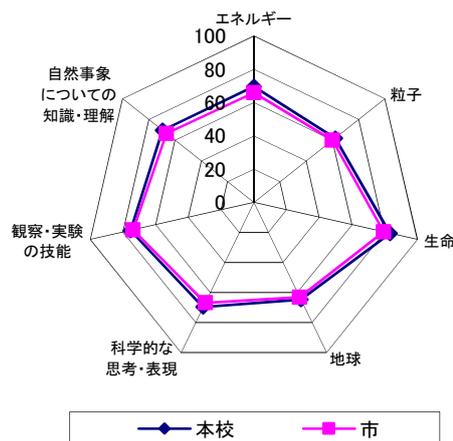
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率が市平均と比べ、-2.0ポイントであった。 ○2次方程式を解く問題に対しては市平均を6.7ポイント上回った。 ●分母を有理化する根号を含む式の計算に対して市の平均を6.7ポイント下回っている。また、乗法公式を使う計算についても課題が見られる。	何度も繰り返しドリル練習を行う。授業中でも短時間で、簡単な計算を行う。 ・1・2年生時の計算が定着されていないため、3年の計算が困難である。各学年でしっかり定着させていく必要がある。
図形	平均正答率が市平均と比べ、1.5ポイント上回っている。 ○1年生時の回転移動した図形の角度や2年生時の多角形の内角の和について理解されている。また、証明問題についても市の平均を上回っている。 ●作図については市の平均値を7ポイント下回っている。	・垂直二等分線や角の二等分線の性質を理解させるとともに、それを利用して作図することを繰り返し練習させる。 ・なぜそうなるのか根拠を明確にしながら説明する授業を今後も行っていく。
関数	平均正答率が市平均と比べ、-2.0ポイントであった。 ○1・2年生時の比例や1次関数については理解されている。 ●関数 $y=ax^2$ の立式や変化の割合については市の平均値より下回っている。	・関数 $y=ax^2$ の立式や変化の割合について、もう少し時間をかけて、じっくり取り組ませる。授業で、グラフ、表、式の関係について考えさせる。
資料の活用	平均正答率が市平均と比べ、-1.7ポイントであった。 ○確率の問題についてはほぼ理解している。 ●1年生時の資料の活用については市平均値より下回っている。	・用語を理解する学習を授業に多く取り入れる。また、資料から読み取った内容を自分の言葉で表現する活動を通し、思考力を育む。

# 宇都宮市立宝木中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	69.8	66.1	56.4
	粒子	62.0	60.0	57.4
	生命	83.2	79.4	75.2
	地球	64.7	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	69.7	66.8	57.2
	観察・実験の技能	75.4	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	69.5	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

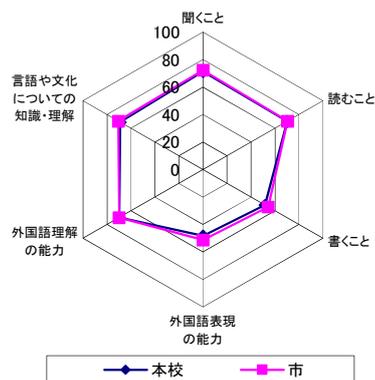
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	市の平均正答率と比べ、3.7ポイント上回った。 ○電流と磁界、物体のいろいろな運動の問題はどちらも市の正答率を上回った。 ●音の性質の問題で、弦の太さ・長さや音の高低と振動数の関係、音を伝える物質については市の正答率を下回った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験方法を丁寧に説明し、本時のめあてを理解させた上で、結果を考察しまとめる時間を確保する。</li> <li>・実験の結果を表やグラフにまとめる力、実験を操作する力など基本的な力が身に付くような授業を取り入れていく。</li> <li>・ワークや課題プリントを繰り返し用いて、学習内容の定着を図る。</li> <li>・理解を深めるために、生徒同士が説明しあう場面を意図的につくる。</li> </ul>
粒子	市の平均正答率と比べ、2.0ポイント上回った。 ○水溶液とイオンについて、どの質問も市の正答率を上回っており、良く理解できている。 ●物質の状態変化の問題では、すべての質問で市の正答率を下回った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な実験器具の正しい操作を身に付けるため、必要に応じてパフォーマンステストを実施していく。</li> <li>・ワークシートを活用し、実験結果を表した表やグラフから、個人やグループで考察できるようにしていく。</li> <li>・公式を使う計算問題を、ワークや課題プリントで繰り返し復習していく。</li> <li>・粒子や原子など目に見えないものについて、モデルで表し、視覚的にとらえやすく工夫する。</li> </ul>
生命	市の平均正答率と比べ、3.8ポイント上回った。 すべての質問が市の正答率を上回っており、さらに他の領域より高い。 ○植物・動物のからだのつくりとはたらきについて、よく理解できている。 ○生物の成長と生殖について、よく理解できている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物教材については、できるだけ実物を使った観察を行い、理解を深めていく。</li> <li>・重要語句を正確に覚え、まとめや発表の場面で活用しながら定着させていく。</li> <li>・多くの生物に興味を持てるような情報を発信していく。</li> </ul>
地球	市の平均正答率と比べ、1.6ポイント上回った。 ○地層や気象について、図や表から読み取る問題の平均正答率は高かった。 ●凝灰岩の層が地層を調べる手がかりになる理由を記述する問題では、市の平均正答率と比べ、4.6ポイント下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章で記述したり、説明したりすることに慣れるため、考察する時間を確保していく。</li> <li>・基本的用語については、繰り返し復習し定着させていく。</li> <li>・図や表、資料を活用し考察する授業を意図的に組み込んでいく。</li> <li>・必要に応じて、レポート等を作成して興味関心を高め、理解を深める。</li> </ul>

# 宇都宮市立宝木中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	71.3	72.2	67.8
	読むこと	70.2	70.5	70.4
	書くこと	51.6	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	48.3	51.2	49.2
	外国語理解の能力	69.6	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	69.0	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>本市正答率を0.9下回った。</p> <p>○「英文の内容に合う絵を選ぶことができる」「対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる」「英文の概要を聞き取ることができる」「英文の内容を聞き取り、必要な情報を理解することができる」「対話の内容を聞き取り、案内をもとに英語で答えることができる」で、全国正答率を平均6.4上回った。</p> <p>●「英文の内容に合う絵を選ぶことができる」(施設の説明)で、市正答率を平均3.6下回った。</p>	<p>・「聞く」意欲は高く、「聞き取り」を得意とする生徒が多い。特に英文の内容に合う絵を選ぶ問題や適切に回答する問題の正答率が高い。反面、対話の内容を聞き取り英語で答える問題の正答率が極端に低いことから、英文や対話文の内容は聞き取れるが、聞き取った内容をもとに正しい英語で答えることを苦手としている。</p> <p>・今後は授業における英語でのやり取りを今後も継続するとともに、副教材のリスニング問題を活用し正しい英語で答える力をつけていく。</p>
読むこと	<p>本市正答率を0.3下回った。</p> <p>○「メールの要点を整理し、相手の意向に適切に応じることができる。」「英文の流れと表をもとに、適切なものを選ぶことができる。」「対話の流れから、登場人物の適切な発言を判断することができる。」で、全国正答率を平均5.3、市正答率を平均4.6上回った。</p> <p>●「語形・語法を理解することができる(whichの疑問文)(it's ~for... To不定詞の文)(継続を表す現在完了)で全国正答率を平均9.4、市正答率を平均1.6下回った。</p>	<p>・今回の結果から、語彙力の不足や基本文型の理解が不十分であることがわかった。文の内容を読み取るときに、意味の分からない単語や文型があるために文が正しく読み取れていない。</p> <p>・今後は単語テストや基本文のテストを定期的に行うことで語彙力や基本文の定着を図る。</p> <p>・単語や文型だけではなく、文の全体的な流れから概要を理解することができるよう、副教材を活用し長文の読解力を高めるような指導をする。</p>
書くこと	<p>本市正答率を2.7、参考値を2.4下回った。</p> <p>○「英文を正しい語順で書くことができる。」(疑問詞+to不定詞)で全国正答率を10.0、市正答率を7.0上回った。</p> <p>●「英文を正しい語順で書くことができる。」(make+(人)+形容詞の文)(want+(人)+to不定詞の文)「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文、否定文を正確に書くことができる。」で、全国正答率を平均4.5、市正答率を平均4.6下回った。</p>	<p>・基本文の理解が不十分のため正しい文章が書けていない傾向がある。また、自分の考えを英語で正しく表現するための語彙が不足している。</p> <p>・今後は、基本文を理解するだけでなく、基本文や新出単語を使って自分の考えや経験を表現させる活動と語彙力を定着させる単語テストを並行して行い、英文を書く力をつけていく。</p>

## 宇都宮市立宝木中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎「わかる授業」のより一層の推進	(1)『分かる授業』の推進 ①「本時の目標(めあて、ねらい)」をつかむことのできる明確な提示	「学校の授業がどの程度わかりますか」について ●1年生75.2%(市84.4%、昨年度91.1%) ●2年生74.2%(市83.0%、昨年度88.7%) ○3年生84.4%(市82.2%、昨年度71.2%)
	②話し合い活動の積極的な導入	「グループなどで話し合いに自分から進んで参加している」について ●1年生76.9%(市81.1%、昨年度77.2%) ●2年生78.3%(市80.6%、昨年度83.7%) ○3年生84.4%(市84.1%、昨年度78.0%)
	③「ふりかえり」活動の徹底	「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」について ●1年生71.1%(市79.1%、昨年度80.5%) ●2年生69.2%(市77.1%、昨年度85.1%) ○3年生85.2%(市76.5%、昨年度72.0%)
◎家庭学習ノートの活用 など、家庭学習の一層の充実	(2)家庭学習の習慣化	「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」について ○1年生61.2%(市53.0%、昨年度39.0%) ●2年生42.5%(市46.5%、昨年度78.7%) ○3年生77.0%(市51.8%、昨年度51.7%)
		「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」について ●1年生57.9%(市62.7%、昨年度51.2%) ●2年生51.7%(市60.9%、昨年度65.2%) ○3年生76.3%(市71.0%、昨年度64.4%)
		「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」について ●1年生67.8%(市79.2%、昨年度71.5%) ●2年生57.5%(市72.6%、昨年度82.3%) ○3年生87.4%(市77.7%、昨年度71.2%)

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

(1)『わかる授業』のより一層の推進に向けて

- ①「本時の目標（めあて、ねらい）」の確実な提示
  - ・毎時間の学習課題に即した目標（めあて、ねらい）の提示をさらに徹底させる。
- ②効果的なノートの活用
  - ・教科担任による板書の工夫や学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導をより一層充実させ、手本となるノートの例を学年の廊下に掲示して褒める指導を行う。
- ③生徒の考えを引き出し、思考を深められる（主体的に考えられる）発問の工夫
  - ・教科担任による教材研究の充実と、「一人一授業」の公開方法をさらに工夫することで、教師間の学び合いを通じた授業力の向上を図る。
- ④話し合い活動の積極的な導入
  - ・授業の中で、生徒同士の意見の交換の場面を、より意識的に増やして、学習活動に積極的に臨めるようにする。
  - ・グループ活動や発表の場面などにおいて、教科担任のコーディネートにより話し合い活動をより一層充実させる。
- ⑤「ふりかえり」活動の徹底
  - ・ワークシートやチェックテストなどを活用して、毎時間の学習課題に即した振り返りを確実に実施する。

(2)家庭学習のより一層の充実に向けて

- ①学習に対する家庭の関心を高める工夫
  - ・三者懇談、教育相談、学校だより、学習だよりなどを活用した学習に関する情報提供を充実させる。
- ②自主学習ノートの点検、アドバイス、賞賛
  - ・学級担任による、家庭学習の内容の点検と、コメントの記入等による助言や認める指導を充実させる。
- ③家庭学習の仕方を明示、説明
  - ・「家庭学習の手引き」を活用し、生徒には年度始めのオリエンテーションで、保護者には保護者会で家庭学習の仕方を説明する。
  - ・定期テスト前など、定期的に教科担任から復習方法の指導を行う。